

基準 1 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目① : 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点 1 : 大学の理念・目的の設定

評価の視点 2 : 学部における、学部、学科ごとの、研究科における、専攻ごとの人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

評価の視点 3 : 大学の理念・目的と学部・学科・専攻の目的の連関性

【大学の理念・目的の設定】

大谷大学の歴史は、江戸時代前期の 1665（寛文 5）年、京都東本願寺内に設置された僧侶の教育研究機関であった「学寮」にはじまる。学寮では仏教、とりわけ親鸞によって明らかにされた浄土真宗の思想の研究と教育が行われた。学制に根本的な改革を加えた近代的大学として、1901（明治 34）年には東京巣鴨で「真宗大学」として開校した。初代学長の清沢満之（以下、「清沢」）は、この際の「開校の辞」において次のように宣言している（資料 1-1【ウェブ】）。

本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、ことに仏教の中において浄土真宗の学場であります。即ち、我々が信奉する本願他力の宗義に基づきまして、我々において最大事件なる自己の信念の確立の上に、その信仰を他に伝える、即ち自信教人信の誠を尽すべき人物を養成するのが、本学の特質であります。

真宗大学は他の大学とは異なって「宗教学校」であり、「仏教の中において浄土真宗の学場」であると示されている。これは、真宗大学が釈尊や親鸞の思想に基づく人間形成の理念及び平等精神によって国民教育の役割を果たそうとする教育研究機関であることを、明確に示すものであった。京都に移された現在の大谷大学はこの精神を継承し、東京での 10 月 13 日の真宗大学開校をもって開学記念日と定めている。

清沢が「開学の辞」で言う「宗教」は、いわゆる宗教組織としての宗教ではない。東京（帝国）大学とその大学院で宗教哲学を学んだ清沢は、宗教を人間が本来的にもつ心の「性能」であり、「真理を求める精神」と考えた。彼は、人間が「いかに生きるべきか」を求める精神をもつと考え、その精神を「宗教」あるいは「宗教心」と呼んだのである。真宗大学を宗教学校であると宣言した時にも、この意味での宗教を意味していた。そして清沢は真宗大学の特質が「我々において最大事件なる自己の信念の確立の上に、その信仰を他に伝える」ことであるとしている。

この清沢の理念を継承し、敷衍したのが第 3 代学長の佐々木月樵（以下、「佐々木」）である。佐々木は、1925（大正 14）年、大学令によって認可された「大谷大学」の入学宣誓式において「大谷大学樹立の精神」を発表した。佐々木は、ここで大谷大学の使命が「宗

教と教育」を両輪として「真実の人格を作る」ことにあると述べ、仏教教育を中心にしてこれを行うことを次のように確認している（資料 1-2【ウェブ】）。

そもそも、国民の精神的要素は、いふまでもなく宗教と教育とである。然も、教育は常に宗教を俟つて真実の人格を作り、宗教は教育によつてのみ常にその陥り易き所の迷信に陥ることを防ぐのである。…（中略）…本大学が専ら世間の官公私立大学及び各宗大学等とも大にその趣を異にする点は、本大学は先ず以て仏教学を以て諸学の首位とし、また之を中心として教授し研究する所にある。…（中略）…諸子は今後益々本学に於ける人格陶冶の三モットーたる所の、本務遂行、相互敬愛、及び人格純真の三条に心をよせ、各自純真の人間となつていただきたいのである。諸子の学問及び人格の完成が、また本学の完成である。

ここで佐々木の言う「宗教」は、清沢が「開校の辞」で示した内容を指している。そして佐々木は更に、そのような宗教教育が設置された 3 学科（仏教学・哲学・人文学）の専門教育との相互関連のなかで十全な役割を果たすとし、そこに真実の人格形成が実現するとする。そしてこのような理念を「本務遂行、相互敬愛、及び人格純真」の「三モットー」として表現した。つまり大学に学ぶ者が各自の専門の学びを通じて「なすべき本務を遂行」し、「相互に敬愛できる社会の創造を目指」して「自ら純真なる人格の形成する」、その実現を目指すのが大谷大学の理念であり目的であると宣言したのである。

このように本学は、一貫して仏教精神に基づいた人間教育を実践し、人間にかかわる諸学問の研究成果を広く社会に公開してきたが、そうした使命をより明確にするために 2018 年度には従来の文学部に社会学部と教育学部を加えて 3 学部体制とし、さらに 2021 年度からは国際学部を加えて 4 学部体制となった。また、本学は大学院を設置しているが、4 学部の各学問分野を包括しうる名称として、2022 年度に文学研究科から人文学研究科へと名称変更を行った。大学及び大学院の目的は本学の理念や学校教育法の趣旨を踏まえて規定しており、例えば大谷大学学則、及び真宗大谷学園寄附行為では「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献すること」と定めている（資料 1-3 第 1 条、資料 1-4 第 1 条、資料 1-5）。また、このような理念に基づく教育を全学的に展開するために、2018 年度から新たに仏教教育センターを開設し、建学の理念の具現化の推進をはかっている。

【学部・学科編成】

上記のとおり、本学は現在、大学に 4 学部、大学院に 1 研究科を設置している（資料 1-6 p.25）。具体的には、大学には文学部 6 学科（真宗学科、仏教学科、哲学科、歴史学科、文学科、国際文化学科）、社会学部 2 学科（現代社会学科、コミュニティデザイン学科）、教育学部 1 学科（教育学科）、国際学部 1 学科（国際文化学科）の 4 学部 10 学科を設置している（ただし、修業年限を超えた学生のみが在籍する文学部教育・心理学科を除く）。国際学部国際文化学科は、2021 年度から文学部国際文化学科を改組し、2024 年度に完成年度を迎える（現在は、文学部国際文化学科と国際学部国際文化学科の学生が在籍している）。な

お、大学院には、人文学研究科6専攻（真宗学専攻、仏教学専攻、哲学専攻、仏教文化専攻、国際文化専攻、教育・心理学専攻）を設置している。

本学の大学院は区分制の博士課程で、前期2年の課程を修士課程として取り扱い、後期3年の課程を博士後期課程としているが、教育・心理学専攻は修士課程だけを設置している。

これらの学部・学科、研究科・専攻については、それぞれの教育研究上の目的を学則に定めている。例えば文学部では「歴史の中で蓄積されてきた多様な文化的所産に学ぶことを通して、人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物の養成をめざす」と定め（資料1-3 第3条）、哲学科では「人間や世界にかかわる根本的な問題を東西の思想伝統を踏まえつつ考究し、多様かつ柔軟な視点と論理的思考力を培い、現代の諸問題に対処することのできる人物の養成をめざす」と定めている（資料1-3 第3条の2）。

大学院においては、例えば真宗学専攻では「親鸞の根本著作である『教行信証』の読解を中心に据え、その教学思想を研究し、自己自身の求道的関心を通して、広い視野をもって人間の諸問題を探究する人物の育成をめざす」と定め（資料1-4 第5条）、仏教学専攻では「客観的文献研究を重視する方法論によって仏教を学問的に研究し、その知見に基づき、現代社会のさまざまな課題の解明にも寄与する人物の育成をめざす」と定めている（資料1-4 第5条）。

【大学の理念・目的との関連性】

既述のとおり、本学は開学以来の建学の理念を堅持しつつその実現のために、仏教精神に基づいた人間教育を行い、人間にかかわる諸学問の研究成果を広く社会に公開してきた。社会変動によって大学の高等教育機関としての役割が多様化しているが、2021年度から新たに4学部体制としたことも、仏教精神を根幹に置く教育研究の伝統を（文学部）、より直接的に社会に還元し（社会学部）、人間教育の現場に活用し（教育学部）、国際社会に視野をもって展開する（国際学部）ことを目指したものである。この大学理念との関連において、各学部・学科、研究科・専攻の目的を定めている。

例えば文学部では「人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、（中略）主体的に生きる」人物を養成するとし（資料1-3 第3条）、これを受けて真宗学科では「自己を問い、人間を問う」、文学科では「人間と社会への理解力及び洞察力」を養うと定めている（資料1-3 第3条の2）。社会学部では「現代社会の諸課題に向き合うことを通して（中略）異なる他者と敬い合いながら生きる世界を構築」する力を養うとし（資料1-3 第3条）、これを受けてコミュニティデザイン学科では「人と人をつなぐ」実践手法を進め（中略）「コミュニティ」のこれからの「デザイン」する人物の養成をめざすと定めている（資料1-3 第3条の2）。

大学院の目的は「仏教並びに人文・社会に関する学術の理論及び応用を教授研究」とし（資料1-4 第1条）、これを受けて、例えば哲学専攻では「人間とは何か」といった根本的問題を東西の思想的伝統を踏まえつつ考究し、現代の多様な価値観に由来する人間の諸問題に対処しうる人物の育成をめざす」と定め（資料1-4 第5条第3項）、仏教文化専攻では「アジア諸地域の文化を歴史学研究と文学研究の両面から解明」と定め（資料1-4 第5条第3項）など、関連性を持たせて設定している。

【有効性や適切性の判断】

以上のとおり、本学では建学の理念を明確に位置づけ、その理念のもとに大学及び大学院の目的を定め、さらにそれを踏まえて学部・学科、研究科（専攻）の目的を定めており、適切であると判断している。

点検・評価項目② : 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点1 : 大学の目的及び学部・学科・専攻の目的の適切な明示

評価の視点2 : 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・学科・専攻の目的等の周知及び公表

【目的の明示】

大学及び大学院の目的については、建学の理念や学校教育法の趣旨を踏まえ、それぞれの学則第1条に規定している（資料1-3 第1条、資料1-4 第1条）。また、各学部の目的は大谷大学学則第3条第2項（資料1-3 第3条第2項）に、各学科の目的は同学則第3条の2第2項（資料1-3 第3条の2第2項）に定めている。大学院の各専攻の教育研究目的は、大学院学則第5条第3項にそれぞれ定めている（資料1-4 第5条第3項）。なお、同学則第3条第2項では博士課程の目的を（資料1-4 第3条第2項）、第3条第4項に修士課程の目的を（資料1-4 第3条第4項）、第3条第5項に博士後期課程の目的を定めている（資料1-4 第3条第5項）。

以上のとおり、大学及び大学院、学部・学科、研究科・専攻（課程を含む）の目的は、全てそれぞれの学則に定めて明示している。

【目的等の周知及び公表】

建学の理念については、毎年学生及び教職員に配付する『学生手帳』に掲載しているほか、学部の全学共通基礎科目である「人間学Ⅰ」では自校教育テキスト『大谷大学で学ぶー建学の理念』を用いて全ての新生に説明し、周知している。また、大学院においても修士課程の必修科目である「仏教の視点」において、仏教精神を学んでもらうとともに、建学の理念を周知している。さらに、既述のとおり大学 Web サイト上で「開校の辞」と「大谷大学樹立の精神」を掲載し、広く学内外に公表している（資料1-7 pp.6～11、資料1-1【ウェブ】、資料1-2【ウェブ】）。また、大学、大学院の目的及び学部・学科、研究科・専攻の教育研究目的は、教職員には学内ポータルサイト上のデータベースで常時確認できる環境を整備するとともに、学生には『履修要項』に記載して配付している（資料1-8、資料1-9）。さらに大学 Web サイト上に学則を公表し、学内だけでなく、広く学外にも周知している（資料1-10【ウェブ】）。

また本学では、建学の精神の具現化のために仏教教育センターを開設している。これは2018年度の複数学部化を契機に、仏教による人物の育成及び宗教的環境の醸成に資する活動をさらに展開することを目的に、設置されたものである。センターでは宗教行事の企

画運営に当たるほか、伝道掲示として「きょうのことば」の選定及び解説もしている。きょうのことばは学生手帳に記載するだけでなく、解説文を毎月 Web サイトで公表している（資料 1-11【ウェブ】）。2023 年度は、宗教行事における記念講演を小冊子にまとめた『仏教教育センター叢書』を創刊した（資料 1-12）。

さらに、入試に関係したところでは、AO 入試の受験生に対して、本学の理念を学長が直接に語りかける形をとっている。

【有効性や適切性の判断】

本学の目的をはじめ、学部・学科、研究科・専攻の目的については、法令に従って適切に学則に明示し、冊子体だけでなく学内ポータルサイトで教職員に周知している。また大学 Web サイトで学外にも公表するなど、適切に行っていると判断している。

点検・評価項目③ : 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点 1 : 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定 ・認証評価の結果等を踏まえた中・長期の計画等の策定

【中・長期の計画の設定】

中・長期計画については、10 年ごとに設定をしている。現在は第 1 期に当たっており、開学 120 周年を迎えた 2021 年に建学の理念に基づく第 2 次の中長期プランとして策定した。第 2 次中長期プラン「グランドビジョン 130（2022～2031）」（以下、「グランドビジョン 130」）では、「「Be Real—寄りそう知性—」の発揮に向けた、学び空間の創生」を将来像として明示し、その実現に向けて大学改革を推進している（資料 1-13【ウェブ】）。「グランドビジョン 130」は、5 部門（教育・学生支援・研究・社会連携・管理運営）の部門別方針に基づく重点施策、中期計画及び単年度事業計画を策定している。具体的な中期計画は、5 年毎（第 1 期（2022～2026）、第 2 期（2027～2031））に区分し、進捗管理については 2022 年度に受審した第 3 期大学評価（認証評価）の結果を踏まえ、評議員会・理事会の意見を聴取し、年 2 回（8 月の執行部夏季ミーティング及び年度末の大学運営会議）行っている（資料 1-14）。

2023 年度は、この「グランドビジョン 130」の 2 年目として、2022 年度に実施した卒業認定・学位授与の方針の改定に続き、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針を改定するなど、内部質保証推進責任組織である大学運営会議が進捗管理を行いながら本学の 10 年後の将来像の実現に向けた取組を推進している。

【有効性や適切性の判断】

以上のとおり、本学における中・長期計画は、2020 年度の私立学校法改正への対応や本学の理念・目的を実現に向けても適切であると判断している。

（２）長所・特色 （意図した成果が見られる（期待できる）事項）

本学の理念・目的に則った教育活動を充実させるため、2018年度から従来の「文学部」に「社会学部」「教育学部」の2学部を加えた3学部体制とし、さらに、2021年度には国際学部を加えて4学部体制とした。この複数学部化によって従来の「文学部」1学部の枠組みを越えた各専門領域に特徴的な教育活動を、これまで以上に社会に開かれた形で展開することが可能となった。

また、仏教教育センターでは、真宗学・仏教学を専門とする専任教員が中心となって授業開講日には交代で常駐する体制を取っており、学生が各自で学修を進める場であるとともに、学修の相談に応答できる場として開いている。加えて、大谷大学における宗教教育、宗教行事、教職員研修（自校教育）、真宗大谷派教師課程に関する事項や、仏教教育の情報発信に関する事項などを担当して建学の精神の具現化に努めている。2023年度には、新たに学内外への情報発信の取組として、宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年真宗大谷派学校連合会慶讃事業「親鸞聖人御誕生会」における講演内容を仏教教育センター叢書として刊行した（資料1-12）。

仏教精神に基づく人間教育を具現化する全学共通の必修科目「人間学Ⅰ・Ⅱ」をはじめとする関連授業科目については、毎年「教育内容の効果検証」を行っている。さらに、卒業生には2012年度から3年毎に人間学をはじめとした仏教精神に基づく本学の教育が、卒業後の人生にあたえた有用性や満足度をはかる問いを設け、継続的かつ定量的に効果検証を行っている。なお、直近に行った2021年度調査では「大谷大学での仏教精神に基づく教育は、あなたの卒業後の生き方、人生観などに何らかの影響をもたらしていると思いますか。」という設問に対して、否定的な回答は2割程度であった。

あわせて、2023年度は本学における内部質保証システムの点検・評価プロセスに則り「適切性の検証」を行い、評価の視点に類する大学の理念・目的や中・長期計画の設定、学内外への周知・公表は適切に対応していることが確認された（資料1-15）。

（３）問題点 （改善すべき事項）

さらなる改善・向上に向けた取組としては、前に挙げた「人間学Ⅰ・Ⅱ」などの科目は、長い人生における成果抽出も求められるため、授業評価アンケートに加えて卒業生アンケートの結果などをもって効果測定を進めることが課題である。

また、事務職員については宗教行事への参加や建学の理念を中心に据えたSD研修などを行っているが、教育職員に対してはいまだ十分とは言えない。今後、仏教教育センターを中心として取り組んでいくべき課題である。

（４）全体のまとめ

本学は1665（寛文5）年に東本願寺内に創設されて以来350年以上にわたって仏教精神

に基づいた人間教育を行い、1901年の大学開学以来も一貫して理念と理念に基づく教育研究活動を保持してきた。

既に述べたとおり、本学の内部質保証システムは内部質保証推進責任組織である大学運営会議から個々の教職員が複層的に質保証を進めるように整備したが、「グランドビジョン 130」に基づき、変動が著しい社会的状況に柔軟に対応しつつ、仏教精神に基づく本学の教育研究活動を継続したい。